

腎泌尿器外科に通院中の患者さんへ（臨床研究に関する情報）

当院では、関西医科大学附属病院が代表機関となり複数の医療機関が協力して実施している臨床研究「尿膜管疾患に対する腹腔鏡下尿膜管摘出術に関する全国調査」の趣旨に賛同し、研究に参加しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。なお、この臨床研究は院内医療倫理委員会の審査を受け、研究方法の科学性、倫理性や患者さんの人権が守られていることが確認され、病院長の許可を受けています。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

《研究課題名》 尿膜管疾患に対する腹腔鏡下尿膜管摘出術に関する全国調査

《全体の研究責任医師》 関西医科大学附属病院 腎泌尿器外科 准教授 木下 秀文

《当院の研究責任医師》 泌尿科 部長 渡邊 紳一郎

《研究の目的》

尿膜管疾患に対する腹腔鏡手術の日本の現状を明らかにし、今後、術式の標準化に向けた、基盤的なデータを構築すること

《研究の方法》

●対象となる患者さん

2006年1月1日から2018年12月31日の間に当院の泌尿器科において、尿膜管疾患に対する腹腔鏡手術を施行した患者さん（全国調査は2000年1月1日から2018年12月31日）。

全国で200名、当院では4名の情報収集を目標にしています。

●利用するカルテ情報

- ① 臨床所見（年齢、性別、体重、尿膜管疾患の症状、病変部位など）
- ② 周術期データ（手術の種類：伝統的腹腔鏡手術・リデュースド・ポート手術（鉗子の数を減じた手術）・単孔手術など、手術時間、気腹時間、出血量、ポート位置、カメラ位置など）
- ③ 手技（臍、膀胱、腹膜等の処理法）
- ④ 手術に関連する合併症など（ポートの追加の有無、開腹術への移行の有無、など）
- ⑤ 術後合併症

《この研究に関する情報の提供について》

この研究に関して、研究計画書や研究に関する資料をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

《個人情報について》

研究に利用する情報を、患者さんのお名前、住所など、患者さん個人を特定できる個人情報は削除して研究代表機関へ提供します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

患者さんからご自身の情報開示等の請求は個々に対応いたします。

《利益相反について》

この研究は外部の企業等からの資金の提供は受けておらず、研究者が企業等から独立して計画して実施しているものです。したがって、研究結果および解析等に影響を及ぼすことは無く、

患者さんの不利益につながることはありません。

*上記の研究に情報を利用することをご了解いただけない場合は以下にご連絡ください。

《問い合わせ先》

済生会熊本病院 泌尿器科 担当医師 部長 渡邊 紳一郎

熊本県熊本市南区近見5丁目3番1号

電話 096-351-8000 (代表)